

1. SYM三町会災害連合会（東京都文京区）地区の概要

(1)地区の人口、面積、高齢化率

- 人口・社会特性：人口5,392人、世帯数3,361世帯、世帯人員数1.60人。
(湯島2・3丁目、平成27年4月1日現在)
- 高齢化率：20.1%。
(湯島2・3丁目、平成27年4月1日現在)
- 面積：0.303km²。
(湯島2・3丁目、平成27年1月1日現在)

(2)地区の自然特性

- 地形：地区の大部分が更新世段丘上に位置しているが、東西の低地に向けて起伏のある地形である。

更新世段丘	
完新世段丘	
凹地、浅い谷	
盛土地・埋立地	
砂州・砂堆・砂丘	

(出典)「首都大地震ゆれやすさマップ」旬報社、2013年。



(3)地区の社会特性

- 地区の範囲：SYM=3つの町会（新花会、三組弥生会、三組町会）+（協力団体）天梅会、天神下四町会災害連合会（計8町会で共闘）
- 土地利用：地区内に湯島小学校、霊雲寺、医療器具などの事業所、住宅（集合住宅が多い）等がある。隣接地区には湯島天満宮、東都文京病院等がある。さらに周辺には、JR上野駅、上野公園、東京大学、東京医科歯科大学（災害拠点病院）、アメ横（商業地域）、秋葉原等がある。
- 地域活動：湯島天満宮例大祭、各種町内会活動（納涼会・ラジオ体操・年末夜警等）、年末夜警では無線機を活用。

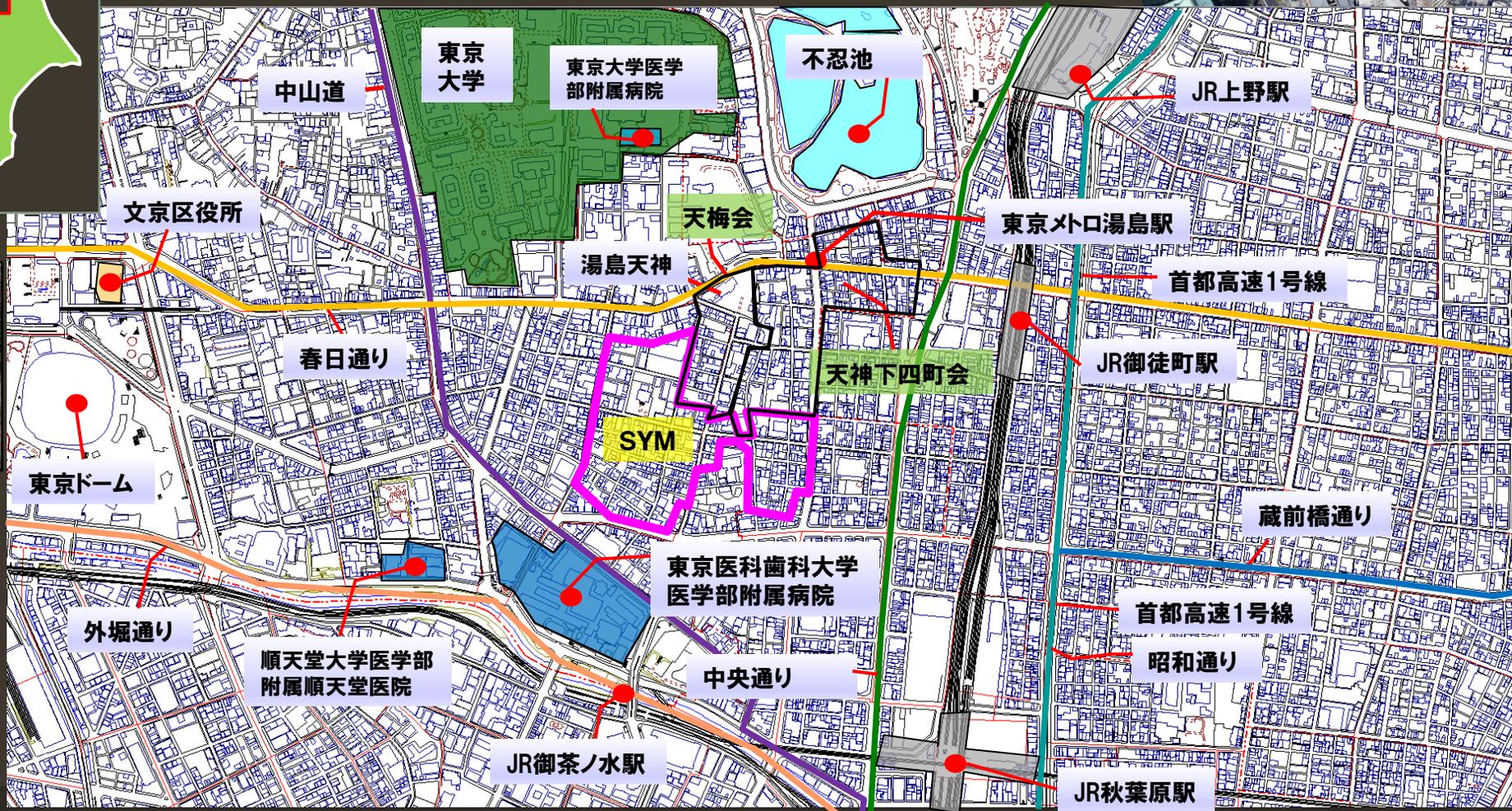
(4)想定される災害

- 文京区の災害履歴：関東大震災（1923年）で震度5強で住家全潰率0.7%等、東日本大震災（2011年）で震度5弱で目立った被害なし。
- 文京区の被害想定：「首都直下地震等による東京の被害想定」（平成24年4月都公表）によると、ほとんどが震度6強、死者253人、建物全壊3,602棟等の被害。
- まち歩き結果によると、擁壁や階段、老朽木造建物、高層マンション、事業所ビルの建設現場、東側繁華街（天神下）での密集商業地を確認。建物倒壊、道路閉塞、火災延焼、帰宅困難者、逸脱行動等の被害を想定。

2. 地区の位置・状況がわかる写真



◎SYM三町会災害連合会地区（ピンク色の枠）
≡ 文京区湯島2・3丁目
○協力団体：隣接5町会（黒色の枠）



写真① 擁壁と坂道



写真② 老朽木造建物



写真③ 飲食店舗等の集積



写真④ 高層マンションの建設現場

(*)ベースマップは東京都デジタルマップを利用。

3. SYMの防災活動

(1) 計画を作成するために取り組んだ内容

1) 防災活動の概要 (平成19年発足～27年7月)

- 平成18年2月、「三町会総合防災訓練連合会」の結成
- 平成18年7月2日、「湯島小学校避難所運営訓練」の実施
- 平成19年12月19日、「SYM三町会災害連合会」の発足
- 平成20年2月13日、文京区とSYM間の「防災覚書」の締結
- 平成20年4月18日、SYM内に「事業所部」の設置
- 平成22年4月29日、事業所との連携訓練（「帰宅困難者対策訓練」）の実施
- 平成22年6月、訓練画像を基に「SYM三町会地域防災マニュアル」の策定
- 平成22年11月27日、「総合防災訓練」の実施（高層住宅での要援護者避難支援）
- 平成23年8月30日、「三組町会事業所防災訓練」の実施（無線連絡、担架搬送等）
- 平成23年12月、災害時要援護者対策の為の学習・講習会の実施（毎年開催）
- 平成24年3月11日、「湯島小学校避難所運営訓練」の実施（参加者総数500名）
- 平成24年4月、「第1回東京防災隣組」の認定
- 平成24年6月9日、「総合防災訓練」の実施（廃ビル内での初期消火訓練）
- 平成24年7月・9月、「救出訓練」の実施（ビルでの負傷者救出訓練）
- 平成24年～、東京防災隣組認定。認定団体の連携方策の検討
- 平成25年6月9日、情報端末を利用した応急救護所の応急処置とトリアージ訓練実施。
- 平成26年3月9日、「湯島小学校避難所開設訓練」の実施（「目的集団化」等）
- 平成26年4月15日、事業所部と連携した「業務用無線機の交信訓練」の実施
- 平成26年7月1日、「盲ろう者防災講演会」の実施（映画の上映と討論）
- 平成26年8月7日、「文京区・防災関係機関等との地域懇談会」の実施（3回開催）
- 平成27年3月、「湯島小学校避難所開設・運営ルール [2015年3月版]」の作成
- 平成27年5月、SYM「福祉厚生部」の設置（要援護者見守り体制、支え合いマップ作り）
- 平成27年7月、天神下四町会防災連合会及び天梅会と、防災・災害時協力協定の締結



・SYMは、平成19年の発足以来、消防・救出訓練、事業所との連携（帰宅困難者対策）、マンション防災、要援護者支援、避難所開設など、既存の防災対策への問題意識を原動力に、実践的で実行可能な防災訓練と検証会議・関係団体との連携・啓発活動等を企画・運営しながら、自らが納得できる最適解を追及してきた。「地区防災計画」はこれまでの活動の集大成（「総合化」）。

2) 「地区防災計画」策定スケジュール (平成27年7月～)

月	検討会: テーマ・内容
7月	・第1回(7月10日): 企画案、 まち歩き 等
8月	・第2回(9月5日): 計画づくりの進め方等
9月	・第3回(9月17日): 被害イメージの共有 等
10月	・第4回(10月22日): 「被災・対応シナリオ」(総合化)
11月	・第5回(11月11日): 「訓練シナリオ骨子」(決議)等 ・第6回(12月3日): 「訓練詳細シナリオ」(習得)等
12月	・ SYM本部情報訓練・検証(12月12日)
1月	・第7回(1月28日): 訓練の検証、地区防災計画の落とし所 等
2月	・第8回(2月25日): 地区防災計画の「フォーラム」準備、 事前対策、組織体制 等
3月	・内閣府モデル地区発表会(3月12日) ・「SYM地区防災計画に関する報告書」作成・提出(3月下旬)
4月～	・「SYM・地区防災計画住民説明会」 ・計画素案に対する住民アンケート ・第9回検討会: 地区防素案の検討等 ・文京区との懇談会: 「具体的事業計画」の検討 ・「区防災会議」への地区防災計画(素案)の提案



3. SYMの防災活動

(2) SYM本部情報訓練・検証 (平成27年12月12日)

1) 訓練実施概要

No	時間	訓練の進行
1	15:08	・震度6強の地震発生。 ・SYM本部から町会本部に、 <u>本部立上げを要請</u> 。 ・SYM本部から事業所に、各社1名、SYM本部への集合を要請。
2	15:10 ～	・各町会からSYM本部に、本部立ち上げ完了の報告。 ・SYM本部から〇〇病院に、軽症以外の <u>負傷者トリアージを要請</u> 。 ・SYM本部から〇〇社に、ショールーム1階に、 <u>負傷者の応急救護所の設置を要請</u> 。
3	15:18	・天梅会からSYM本部に、湯島小学校の <u>避難所開設のための応援要請</u> 。
4	15:18	・SYM本部から天梅会に、 <u>春日通りの停車車両を湯島天神方向に誘導するよう要請</u> 。 ・天梅会からSYM本部に、 <u>春日通りの誘導要員10名派遣の要請</u> 。SYM本部から天梅会に、 <u>避難所応援部隊から10名を移動させる旨を連絡</u> 。
5	15:21	・三組町会からSYM本部に、エレベーター内閉じ込め者救出の応援要請。
6	15:28	・天神下四町会本部からSYM本部に、 <u>消火活動実施と、要配慮者50名を湯島小学校に受け入れるよう要請</u> 。
7	15:29	・三組弥生会からSYM本部に、半壊家屋にいる認知症患者が避難の説得に応じないため、 <u>介護士派遣の要請</u> 。
8	15:31	・天神下四町会本部からSYM本部に、同朋町会方面での火災発生と鎮火の報告。
9	15:43	・三組町会からSYM本部に、〇〇病院で負傷者多数のための <u>トリアージ応援要員15名を要請</u> 。 ・SYM本部から青パト担当者に、重症者搬送のため、 <u>青パトの派遣を要請</u> 。 ・SYM本部から三組町会に、日本薬科大学の学生15名の派遣等を連絡。
10	15:45	・青パトからSYM本部に、 <u>重症者を〇〇病院に搬送完了の報告</u> 。
11	15:45	・SYM本部から各町会本部に、 <u>支え合いマップによる安否確認を要請</u> し、現時点での被害状況の報告を依頼。
12	15:47	・各町会本部からSYM本部に、最新の被害状況を報告。
13	15:58	・SYM本部から区災対本部に、 <u>最新の被害状況を報告</u> 。
14	—	・三組弥生会からSYM本部に、 <u>不審者グループ発見の報告</u> 。 ・SYM本部から三組弥生会に、 <u>青パト派遣の連絡</u> 。



2) 防災上の課題に対する地区での取り組み

	SYM防災上の課題	取り組み内容 (予定含む)
■ 1	通信手段 (無線機) の使い方・ルール	本部情報訓練・無線機習熟訓練の継続
■ 2	事業所・学校 (ボランティア) との連携方法 (人員確保策)	<u>学校等との協定締結</u> 、各種防災訓練の実施 (帰宅困難者対策訓練等)
■ 3	防犯・防災パトロールの方法 (青パト、マル緊マーク)	<u>青パト・マル緊マークの申請</u> 、防犯・防災パトロール訓練の継続
□ 4	病院、福祉事業者との連携方法	<u>〇〇病院・近隣事業所との連携による災害医療体制の構築</u>
□ 5	要援護者支援対策の方法 (聴覚障がい者、外国人等)	要援護者名簿、 <u>支え合いマップ</u> (「ほほ笑みの風」)、担当部署との覚書、要援護者支援訓練の実施、講習会の開催、 <u>社協・福祉事業者・関係団体等との連携</u>
□ 6	火災避難の方法 (情報収集、避難指示・誘導、要援護者支援、道路閉塞等)	<u>消防・警察等との連携</u> 、本部情報訓練の継続、事業所との連携等
■ 7	道路閉塞への対応方法 (「交通規制」)	<u>警察・消防等との連携</u> 、本部情報訓練の継続、事業所との連携
□ 8	マンション防災の方法 (エレベーター内閉じ込め者)	<u>マンション防災マニュアル作成、シンポジウムの開催</u>
□ 9	行政 (文京区、消防、警察等) との連携強化の方法	<u>区との役割分担の調整、「具体的事業計画」の策定</u>
■ 10	湯島小学校避難所開設・運営に関する課題	避難所開設訓練・ルールの更新、HUG (避難所運営ゲーム) の継続

3) 防災活動で明らかになってきた問題

- 災害対応には多くの意思決定と防災資源が必要 (担い手確保等) → しかし、自主防災組織には権限と責任の保障がなく、大半が無関心層。
- 様々な関係者との連携が必要 → 関係づくりの難しさ
- リアリティを追及した実践的な防災訓練・対策が必要 → 財源の厳しさ
- 【対行政】地区防災活動への多様な支援が必要 (「具体的事業計画」)